会長メッセージ

「WIN-WIN」の関係を、全てのステークホルダーと

代表取締役会長 吉田 均

グループ全体の一体化が進む

この6月で、ちょうど10年務めたCEOを退任しました。元々10年で次に襷（たすき）をつなごうと思っていたので、良いタイミングです。

振り返ってみれば、この10年で東京精密グループもずいぶん大きくなりました。従業員の皆が一致団結して歩み続けてくれたお陰です。私がCEOになった2015年4月には、売上高で664億円、営業利益で121億円でした。それが昨年度はそれぞれ2.3倍と2.5倍になっています。従業員の数もずいぶんと増えました。着任時には「ビリオンカンパニー（年商、時価総額ともに10億米ドル以上の会社）にはなりたい」と思っていたのですが、そこは叶えられたかな、と思います。

今年から当社グループでは新しい中期経営計画がスタートしましたが、私の着任時にはまだ中計というものはありませんでした。就任2年目で初めて3年の中期目標を立てたのですが、最初は1年前倒しで目標達成、次の中期目標は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大で1年延長して4年目で達成。そして3回目が2024年度までの売上高1,700億円と少しチャレンジングな目標を掲げたのですが、景気動向の影響もあり残念ですが未達となりました。ただ、売上高、当期純利益ともに既往ピークを更新できたので、良い状況で終われたと思います。

もうひとつ良かったのは、グループ全体を一体化する方向に持っていけたことです。カンパニー制のマイナス面として、縦割りが過ぎて一体感がなくなることがあります。着任時からそこが問題だと思っていましたし、2021年の子会社不祥事もそうした背景のもと発生しました。その後、子会社に役員を送り込んだり、半導体製造装置部門から精密測定機器部門にグループリーダーを入れた

▶Introduction
イントロダクション
目次
東京精密のDNAと使命
東京精密の目指す姿
At a Glance
会長メッセージ
CEOメッセージ
Strategy
Sustainability
Governance
Data

りと、従来の縦割りでは有り得なかった人事も行い、一体化をだいぶ進めることができました。後任の木村龍一CEOもこの路線を全面的に打ち出し、「精密測定機器と半導体製造装置の融合によるシナジー」という方針で加速してくれているので、とても良い流れになっていると感じます。

しかし、グループの一体化はまだ完成した訳ではありません。海外現地法人を含め、それぞれの良さやローカル性は保ちつつも進めていく必要があります。本社の方ばかり見て指示待ち状態になるのは良くない。CEOが方針を示したら、あとは自分たちで考えて動き、その結果得られたものを全体で共有する。そういう組織を目指してほしいですね。

実務は全面的にCEOにお願いするとして、私は今後、コーポレート・ガバナンスやサステナビリティ活動、業界団体などでの活動を通じて、東京精密というブランドをさらに磨き上げたいと思っています。社内のサステナビリティ委員長は引き続き務める所存です。

皆を満足させられる人こそが経営者

経営者にとって大事なことは、魅力のある人であり続けることだと思っています。人格であったり、リーダーシップであったり、人を引き付ける何かがある人が経営者には向いています。そういう人になるために、大切なのは気配りです。世の中の動き、お客さまの考え方、従業員や協力会社などさまざまなステークホルダーに対する気配りがきちんとできる人であってこそ、周りの人も一緒にいて心地良いし、それが魅力につながるのではないかと思います。また、そういう人でなければ、いくら旗を振っても人は付いてきてくれません。自分だけが良ければよい人も駄目です。世の中の役に立てる、皆を満足させられる人であってこそ経営者だと思います。この度CEOを引き継いだ木村社長はそういう魅力のある経営者だと感じていますし、そうあり続けてくれるものと確信しています。

その上で、当社グループの今後の発展の鍵を握るのは、やはり技術力だと思うのです。世の中の技術の進歩がどんどん速くなり、我々の技術力も、もう1段2段高めていかないと勝っていけません。特に半導体分野では、日進月歩でテクノロジーが変わり要求される能力や技術がどんどん高まっています。精密測定機器分野はモノづくりが無くならない限りそのニーズはありますが、内燃機関からEV（電気自動車）へのシフトチェンジが自動車産業で起こっているように作るモノが変わってきています。また航空宇宙やエネルギー、医療などの新しい分野での測定ニーズも高まっている。このようにモノづくりは絶えず変化しており、そこに対応していくには技術を磨く以外ありません。しかも、お客さまから要求が出てきてからでは遅い。5年先、10年先を見据えた要素技術開発が絶対に必要です。皆の頑張りに期待しています。

企業の価値を高めていくには、ESGへの取り組みも絶対的に必要です。利益のみを追っても意味がない。企業理念に謳うだけでも意味がない。世の中の役に立ってこそ企業です。グループの全員が共感と思いを持って、本来業務と同様に捉えていくべきでしょう。

地球温暖化は危機的な状況へと向かいつつあります。50年後、100年後に、地球は果たして人類が住める環境であり続けられるのでしょうか。一人ひとりが真摯に捉え、家でも仕事でも考えていく必要があります。社会面でも、皆が働きやすい環境とはどういうものかを考えれば、自ずとDEIにつながります。いずれにせよ、統合報告書に良いことを書いてそれで終わり、ではなく、本気で推進できるのか、本業にいかに組み入れるかが鍵です。

誇れる、魅力ある会社に

当社グループには誇れるパーパスやビジョン、ミッションがあります。本気で実現を目指してほしい。それだけではなく、従業員が勤めていることを誇れるような会社、協力企業が付き合いを誇れるような会社になってほしいと思っています。利益だけを追求していては、決してそうはなれません。しかし利益なくして企業は存続できない。ESGの推進も、魅力ある会社になるためには重要です。きちんと利益を出し、その上でその利益をどう活かしていくかがポイントだと思っています。結局は、世の中にどう貢献していくのか、ということに尽きます。

そういう会社は具体的にはどういう会社か。ステークホルダーと「WIN-WIN」の関係を作って、皆で満足し合える会社ではないでしょうか。次の世代の従業員にも、次の次の世代にも、「WIN-WIN」の関係を皆と築くことを大事にしていってもらいたい。こうした思いを伝えていくために、これからもできる限り従業員たちと話し、悩みを聞き、背中を押していきたいと思います。

▶Introduction
イントロダクション
目次
東京精密のDNAと使命
東京精密の目指す姿
At a Glance
会長メッセージ
CEOメッセージ
Strategy
Sustainability
Governance
Data